

倉敷中央看護専門学校 自己点検・自己評価結果（令和2年度）

1. 目的

本校の看護教育の充実に向けて、自己点検・自己評価を行い、学校運営・教育活動の改善・維持・発展の活動を推進する。

2. 自己点検・自己評価の流れ

- 1) 厚生労働省「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を参照し、本校の教育理念・目的等に沿って（125の視点）自己点検・自己評価の項目を設定する。

[9 カテゴリー]

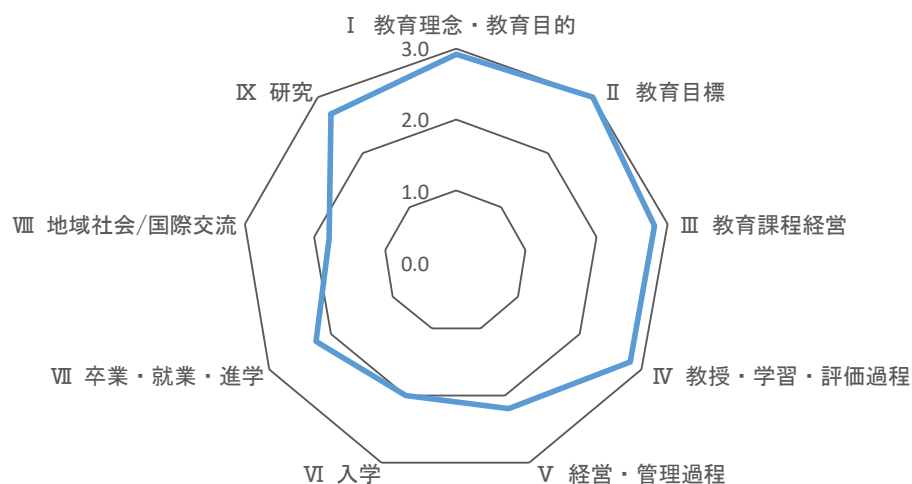
- I 教育理念・教育目的
- II 教育目標
- III 教育課程経営
- IV 教授・学習・評価過程
- V 経営・管理過程
- VI 入学
- VII 卒業・就業・進学
- VIII 地域社会/国際交流
- IX 研究

- 2) 教職員が担当別に自己点検・自己評価し、自己点検・自己評価会議で結果の分析・改善点を明らかにする。

3. 評価結果

9 カテゴリー（67項目 125の視点）

評価基準 3（当てはまる） 2（やや当てはまる） 1（当てはまらない）



カテゴリー	評価点	評価と今後の課題
I 教育理念・教育目的	2.9	「懇切なる看護」実践者の育成を目指し、入学時ガイダンスや講話等で教育理念・目的を周知する機会を設けている。移転に伴う記念式典として大原理事長による「倉敷中央病院と姉妹事業たち」の講演を行った。また倉敷中央看護専門学校記念室を設け、校長書の院是を掲示することで、理念に触れる機会となっている。
II 教育目標	3.0	教育目標は専門職として身につける能力と共に学習者として身につける能力の指標となっている。さらに学年目標を明示し、学生自身が自己評価をしながら進めている。
III 教育課程経営	2.8	平成30年度に臨床判断能力の強化を目的としてカリキュラム変更を行い、変更後初年度の卒業生を輩出した。臨地実習では対象の反応に応じた看護実践を早期から展開できるようになっているが、知識や分析を活用し根拠をもった判断力の育成については課題もみえた。教育課程について体系的に評価できる仕組みが必要である。
IV 教授・学習・評価過程	2.8	COVID-19の感染拡大に伴い通常のカリキュラム運営が困難な時期があったが、学内では遠隔授業ができる通信環境を整え、実習では各領域の特徴に合わせたシミュレーション教育等を行い目標達成ができた。学習の動機づけとなるようシラバスを充実していく。
V 経営・管理過程	2.2	校舎移転に伴う施設整備により学習環境、ICT環境の充実化を図った。また学籍管理システムを導入し、学生情報の一元化、健康管理のポータルサイトも開設した。コロナ禍での学生の経済支援は奨学金や給付金を活用した。移転に伴う施設維持費の評価を行い、財政計画に反映する。ホームページのリニューアルを行ったが、ニーズに応じた情報発信は課題である。自己点検・自己評価体制を整え、改善活動を行っていく。
VI 入学	2.0	COVID-19等、感染症への感染防止対策を講じて、募集活動と入学試験を安全に実施し定員が確保できた。入学生の状況を分析し、今後の募集活動・入学試験に反映できるよう取り組んでいく。
VII 卒業・就業・進学	2.3	COVID-19の影響はあったが個別面談・個別学習支援を強化し、国家試験合格率は100%であった。卒後の進路は、倉敷中央病院への就職85%、他院6%、進学9%であった。卒後の活動状況を把握し、教育活動に反映していく必要がある。
VIII 地域社会/ 国際交流	1.8	例年行っていたボランティア活動は、COVID-19の影響のため中断せざるを得ない状況となった。校舎移転と新カリキュラムでの教育活動を機会とし、地域社会との交流をすすめていきたい。
IX 研究	2.7	研究活動を行う際には、機構内の研究委員会や倫理審査委員会による助言を受けられる体制が整っている。研究の実施に至っていないが、新カリキュラム構築のために研究的視点を持ち教育活動の評価を行った。

4. 学校関係者評価委員会（令和3年12月10日）開催

1) 自己点検・自己評価結果に対しての指摘事項はなかった。

2) 委員からのご意見

- ・コロナ禍で行事や実習などが縮小される中で、人間関係を築くことや体力の低下なども問題視されている。今後も社会性や人間性を高める教育などを強化できるとよい。
- ・ホームカミングデーは、臨床と学校のギャップやしんどさを共有し、頑張ろうと思えるし、看護師を目指したきっかけを思い出し力になった。継続してもらいたい。
- ・臨床と協同した教育活動の検討ができるとよい。
- ・看護基礎教育では、看護の本質・原点を学んでももらいたい。

5. 終わりに

令和2年度は、初めて学校関係者評価委員を交えての自己点検・自己評価を実施した。各々の意見を参考にし、今後本校の特徴でもある病院との連携を強化しながら、「懇切なる看護の実践者」の育成を目指します。また、自己点検・自己評価を継続的に実施し、教育活動をさらに改善し充実に努めます。

以上